

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長坂小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 60人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率（本校 64／泉佐野市 67／大阪府 68／全国 70.7）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、中位層が多く分布している。
平均正答率（本校 45／泉佐野市 51／大阪府 52／全国 54.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

| 国語A | 特徴がみられた設問 |
|--|--|
| <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことができている。</p> <p>1 図書館への行き方の説明として適切なものを選択する (93.3/90.8)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることが概ねできている。</p> <p>4 『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する (78.3/74.0)</p> | <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>○相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。</p> <p>7 【話を聞いている様子の一部】の <input type="checkbox"/>ア<input type="checkbox"/>イ<input type="checkbox"/>ウ<input type="checkbox"/>エ<input type="checkbox"/>オ<input type="checkbox"/>カ<input type="checkbox"/>ク<input type="checkbox"/>コ<input type="checkbox"/>ク<input type="checkbox"/>ケ<input type="checkbox"/>コ</p> <p><input type="checkbox"/>イ に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する (45.0/56.0)</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。</p> <p>8ア 文中で漢字を使う（せい造） (61.7/73.4) イ 文中で漢字を使う（せつ備） (70.0/82.2) ウ 文中で漢字を使う（しょう毒） (68.3/82.2) エ 文中で漢字を使う（かん理） (53.3/65.0)</p> |

| 国語B | 特徴がみられた設問 |
|--|---|
| <p>【書くこと】</p> <p>○目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることに課題がある。</p> <p>2一 「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に「.....」のように書いた理由として適切なものを選択する (46.7/57.6)</p> <p>○推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉えることに課題がある。</p> <p>2三 【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する (60.0/70.8)</p> | <p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。</p> <p>3二 【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】<input type="checkbox"/>C<input type="checkbox"/>D<input type="checkbox"/>E<input type="checkbox"/>F<input type="checkbox"/>G<input type="checkbox"/>H<input type="checkbox"/>I<input type="checkbox"/>J<input type="checkbox"/>K<input type="checkbox"/>L<input type="checkbox"/>M<input type="checkbox"/>N<input type="checkbox"/>O<input type="checkbox"/>P<input type="checkbox"/>Q<input type="checkbox"/>R<input type="checkbox"/>S<input type="checkbox"/>T<input type="checkbox"/>U<input type="checkbox"/>V<input type="checkbox"/>W<input type="checkbox"/>X<input type="checkbox"/>Y<input type="checkbox"/>Z<input type="checkbox"/>ア<input type="checkbox"/>イ<input type="checkbox"/>ウ<input type="checkbox"/>エ<input type="checkbox"/>オ<input type="checkbox"/>カ<input type="checkbox"/>ク<input type="checkbox"/>コ<input type="checkbox"/>ケ<input type="checkbox"/>コ</p> <p><input type="checkbox"/>C 最も心がひかれた一文とその理由の文章の「.....」に入る内容を書く (30.0/52.3)</p> |

3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|---|------|------|-------------|------|
| 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか | 62.3 | 76.7 | ○ | 14.4 |
| 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか | 52.4 | 61.0 | ◇ | 8.6 |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか | 68.8 | 77.7 | ◇ | 8.9 |
| 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A） （「余った」「ちょうどよい」の合計） | 60.6 | 80.0 | ○ | 19.4 |
| 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B） （「余った」「ちょうどよい」の合計） | 57.4 | 74.7 | ○ | 17.3 |

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

* 上記の3項目については、すべての教科領域に対する質問ではあるが、国語力の活用とみなした。

○授業において情景描写に着目した授業展開をしたことで、一定の成果があった。

○敬語かどうかは理解しているが、使い方に課題がある。

○選択式問題であっても無回答率が高い。

○語彙量が少ない。特に慣用句に課題がある。

○字数制限のある問題について、課題がある。

○文章量が多い問題や資料（理解しないといけない資料）の多い問題を解くことに課題がある。

○問題文や児童質問紙から、「どのように発表するか」また「工夫して発表すること」などを難しいと感じている児童が多い。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、下位層が多く分布している。

平均正答率（本校 56／泉佐野市 62／大阪府 63／全国 63.5）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べると下位層に偏りがある。

平均正答率（本校 41／泉佐野市 48／大阪府 51／全国 51.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

| 算数A | 特徴がみられた設問 |
|---|---|
| <p>【数と計算】 ○1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることは全国を上回ってはいるが課題がある。 1(3) 針金1mの重さを求める式を選ぶ (68.3/65.3)</p> <p>【数量関係】 ○百分率を求めることに課題がある。 8 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ (38.3/52.9) ○折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることに課題がある。 9 示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ (50.0/63.6)</p> | <p>【量と測定】 ○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している。 4(1) 面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ (90.0/87.8)</p> <p>○180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。 5(2) 分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める (45.0/58.5)</p> <p>【図形】 ○直径の長さと同周の長さの関係について理解することに課題がある。 7(2) 円の直径の長さが2倍になったとき、同周の長さが何倍になるかを選ぶ (45.0/55.6)</p> |

| 算数B | 特徴がみられた設問 |
|--|---|
| <p>【図形】 ○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことが概ねできている。 1(1) 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ (75.0/71.7) ○図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述することに課題がある。 1(2) 一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く (28.3/48.2)</p> <p>【数量関係】 ○示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることに課題がある。</p> | <p>2(1) 全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く (55.0/70.5) ○示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することに課題がある。 2(2) 1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める (31.7/47.9)</p> <p>【数と計算】 ○示された考え方を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することに課題がある。 4(1) 「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す (41.7/62.7)</p> |

3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|---|------|------|-------------|------|
| 算数の勉強は好きですか。 | 57.3 | 64.0 | ◇ | 6.7 |
| 算数の勉強は大切だと思いますか。 | 78.7 | 92.1 | ○ | 13.4 |
| 算数の授業の内容はよく分かりますか。 | 85.3 | 83.4 | | 1.9 |
| 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。 | 73.7 | 74.3 | | 0.6 |
| 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。 | 77.0 | 78.4 | | 1.4 |
| 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。 | 64.0 | 64.4 | | 0.4 |
| 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。 | 86.9 | 90.3 | | 3.4 |
| 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。 | 72.1 | 78.5 | ◇ | 6.4 |
| 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。 | 75.4 | 80.4 | ◇ | 5.0 |
| 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように、ノートに書いていますか。 | 78.7 | 85.8 | ◇ | 7.1 |
| 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（「最後まで努力した」） | 60.7 | 70.6 | ◇ | 9.9 |
| A問題の解答時間は十分でしたか。 （「余った」「ちょうどよい」の合計） | 70.5 | 80.3 | ◇ | 9.8 |
| B問題の解答時間は十分でしたか。 （「余った」「ちょうどよい」の合計） | 57.3 | 66.0 | ◇ | 8.7 |

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

○授業内で問題場面を捉えるために2本の数直線（白紙）のものに数値を書きこんで考える活動を続けてきたことが、数直線を用いての問題で成果として表れた。

○パワーポイントを用いての指導等、視覚支援をしたことで、面積の問題に効果があった。

○割合の問題において、問題場面を想定できず、文章中に出てくる数字だけをとらえて立式している傾向がみられた。

○言葉を使って説明や証明をする問題を解くことに課題がある。

○結合法則、分配法則の理解に課題がある。

○問題文の量が多く、要点をつかむことに課題がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国の11問をピークに山形なのに対し、本校は7問・8問をピークに6～9問に集中している。
- ・正答数の全体的な分布状況は全国に比べ中位層にふくらみ、上位層が少ない。
平均正答率（本校 51／泉佐野市 57／大阪府 57／全国 60.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

| 理科 | 特徴がみられた設問 |
|--|---|
| <p>【生命】 ○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。 1（3）腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く（63.3/79.4） ○人の腕が曲がる仕組みを模型に適用することは全国を上回ってはいるが課題がある。 1（4）人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ（61.7/56.6）</p> <p>【地球】 ○堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。 2（1）流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ（88.3/83.6） ○より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報に関係付けながら、分析して考察することに課題がある。 2（4）上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ（48.3/59.8）</p> | <p>【エネルギー】 ○乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用することに課題がある。 3（1）風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ（43.3/63.5） ○電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。 3（2）回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ（26.7/47.7） ○実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善することに課題がある。 3（3）回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ（43.3/59.4）</p> <p>【物質】 ○物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することに課題がある。 4（3）食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ（30.0/42.7）</p> |

3. 学習状況調査より

| 質 問 項 目 | 本校 | 全国 | 10%○ 5%◇ | 差 |
|---|------|------|-------------|------|
| 理科の勉強は好きですか。 | 83.6 | 83.5 | | 0.1 |
| 理科の勉強は大切だと思いますか。 | 70.5 | 85.4 | ○ | 14.9 |
| 理科の授業の内容はよく分かりますか。 | 83.6 | 89.4 | ◇ | 5.8 |
| 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。 | 73.8 | 87.0 | ○ | 13.2 |
| 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。 | 55.8 | 64.7 | ◇ | 8.9 |
| 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。 | 57.4 | 72.9 | ○ | 15.5 |
| 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。 | 29.5 | 26.1 | | 3.4 |
| 理科の授業で自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしていますか | 44.2 | 54.5 | ○ | 10.3 |
| 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。 | 86.9 | 89.1 | | 2.2 |
| 観察や実験を行うことは好きですか。 | 82.0 | 89.8 | ◇ | 7.8 |
| 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。 | 59.0 | 75.2 | ○ | 16.2 |
| 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。 | 70.5 | 81.8 | ○ | 11.3 |
| 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。 | 54.1 | 68.1 | ○ | 14.0 |
| 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか（「最後まで努力した」） | 70.5 | 77.3 | ◇ | 6.8 |
| 5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか | 85.3 | 87.5 | | 2.2 |
| 5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか | 73.8 | 75.1 | | 1.3 |
| 調査問題の解答時間は十分でしたか。 | 85.2 | 90.1 | | 4.9 |

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

○理科の勉強は好き（83.6%）・理科の授業はおもしろい（85.3%）と感じている児童は多いが、理科の勉強を大切であると思っている児童が少ない（70.5%）ことが課題である。

○理科には興味はあるが、自分で考えたり自分からとりくんだりすることに課題がある。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

| 設問内容種別 | 本校の状況 | 本校 < 本校回答率 / 全国回答率 > |
|---------|---|---|
| 家庭・地域生活 | <p>○自己肯定感については、昨年度より改善傾向にある。</p> <p>○基本的な生活習慣に課題がある。 (就寝時間・起床時間に課題)</p> <p>○読書を習慣づけることに課題がある。</p> <p>○地域学習は、意欲的に参加している。</p> <p>○地域や社会に対する関心は全国より低いが、昨年度より改善傾向にある。</p> | <p>○自分には、よいところがあると思う。(78.7/84.0)</p> <p>○朝食を毎日食べている。(85.2/94.5)</p> <p>○毎日同じくらいの時間に寝ている。(62.3/77.0)</p> <p>○毎日同じ時刻に起きている。(77.0/88.8)</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) (全くしない 37.7/18.7)</p> <p>○家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。(73.8/80.5)</p> <p>○授業等で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。(88.5/74.4)</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加する。(42.6/62.7)</p> <p>○地域や社会の問題や出来事に関心がある。(54.1/63.8)</p> |
| 家庭学習 | <p>○宿題はほとんどの児童がしている。</p> <p>○家庭学習(予習復習)のとりくみがやや改善傾向にある。</p> <p>○自学自習では教科書を活用するように努めている。</p> | <p>○家で、自分で計画をたてて勉強する(45.9/67.6)</p> <p>○家で、学校の宿題をする。(93.4/97.1)</p> <p>○家で、学校の授業の予習・復習をする(47.6/62.6)</p> <p>○家で、自学自習において教科書を使う(72.2/69.9)</p> |
| 学校生活・学習 | <p>○学習規律に課題はあるが、授業は大切にしている。</p> <p>○自分の考えを发表或し、自分の考えを深めたりすることに課題がある。</p> | <p>○学校のきまりを守っている(77.0/89.5)</p> <p>○算数の授業の内容はよく分かる。(85.3/83.4)</p> <p>○理科の授業の内容はよく分かる。(83.6/89.4)</p> <p>○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた (62.3/76.7)</p> <p>○5年生までに受けた授業で、自分の考えを发表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた (52.4/61.0)</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている (68.8/77.7)</p> |

本校のとりくみ

◎これまでのとりくみ

1. 基礎基本の学力の定着

◇長坂タイム（始業前15分）のとりくみ

国語（漢字+ α ）・算数（計算+ α ）・外国語（DREAM）

◇学習規律の確立

「長坂小！みんなの学習ルール」「聞きとり名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」

「聴く、話す」「立腰」（姿勢の保持）など適切な学習態度・行動を促す。

◇復習テストの実施（4月、11月、2月）

前学年までの既習事項を確認することで児童の実態把握をし、つまずきやすい単元を発見して、授業改善を行う。

◇ノート指導

見やすいノートの規準を示し、ていねいにノートを書く習慣をつける。

◇わくわく学習会

週1回放課後学習会（希望参加）を設定。集中して学習する姿勢を身につけ、算数の基礎基本問題を解き、自分の課題を克服していく。また、応用問題に触れる機会をつくる。

2. TT（チームティーチング）、少人数指導・少人数習熟度別指導

◇学習内容によって、学びの形態を変え、よりわかりやすい授業、個別課題に対応する授業を行う。

3. 宿題・家庭学習の徹底

◇家庭学習の習慣化を促す「家庭学習のてびき」

家庭での基本的な学習態度や生活習慣を示し、毎学期「ばっちりウイーク」を設定し、家庭でも評価してもらう。

4. 指導力の向上

◇「聴く、話す」の力を高めるために（国語科の授業研究を通して）

基礎基本の学力をもとに、実際に課題を解決していくてだて（活用力）を高めていくため、「人の話を主体的に聴く」「自分の意見を人にわかるように話す」といった力をつける言語活動を研究・実践する。さらに、思考力を高める手立てとしてホワイトボードを活用した授業づくりをすすめる。

◇ユニバーサルデザインを意識した授業づくりのスキルを高める

上記の研究と並行して教室環境の整備、授業のめあての明示とふりかえりの徹底、実物投影機等のICTの活用、板書の工夫、聞きやすい説明の方法、意欲を高める評価方法など、実践交流を行い、研究通信により情宣する。

◇学力向上アドバイザーの配置

子どもの学習相談や課題のフォロー、職員の授業力アップに資する人材の活用により、学力課題に対する組織的とりくみ支援と個別支援をすすめる。

◇算数サポーターの配置

授業中の個々のつまずきに適宜対応できる個別支援をすすめる人材の活用。

5. 学級集団づくりと生徒指導

◇子どもたちの人間関係を把握し、安心して自分が出せ、ともに学習していく学級経営の研究と実践を行うとともに、一つひとつの生徒指導上の事案についてケース会議等、学校総力をあげて心の安定を図る。

◎これからのとりくみ

本校では「あなたも わたしも 大切な ながさかっこ 聴き合って 話し合って とともに学ぼう！」を教育目標にして様々なとりくみを進めています。児童質問紙において、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(83.6%)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(98.4%)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(86.9%)と肯定的な回答が多いことから、これまでのとりくみが定着しつつあることがうかがえます。

これからも、児童の心の安定を図りながら、学習面においては「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習方法・指導方法の研究を継続していきます。さらに、研究推進委員会での提案を実践し、学校総体としてホワイトボードを活用した授業展開を進めることで、個人学習・ペア学習・グループ活動等、思考力を高めるための手立てを講じていきます。これらのとりくみを継続し、「わかる授業」づくり・授業のスタンダードを再構築し、それぞれのとりくみがより有機的に結びつき実践できるように努めます。

【課題を克服するための具体的なとりくみ】

国語

- ・文章中の大切な所に線を引いて、目的に応じた情報を捉えられるようにする。
- ・長坂プリントの活用、絵本の読みきかせなど語彙量を増やすとりくみをする。
- ・文字数を意識した書かせる活動にとりくむ。
最初は制限をつけずに書かせ、書けるようになったら文字数制限を加えていく。
- ・読む習慣、読み返す習慣をつける。
- ・フラッシュカードなど使って語彙力をつけさせる。
- ・辞書の活用（言葉集め）3年生からの積み重ね。調べる習慣をつける。

算数

- ・授業内での体験的な活動を取り入れていく。体験を通して理解を深めることにより、問題を解く際の活用力が身についていくと想定して授業をすすめる。
- ・問題場面を把握するための手立てを、各学年の発達段階（具体的操作→抽象的操作）を意識して取り入れる。
- ・他人の考えを理解し、説明できる証明力をつける。（考え方の多様性）

理科

- ・授業で習ったことを子どもたちの生活に結び付けていく。
- ・予想から実験・観察方法を考えさせる。
- ・子どもたちで思考し、自分たちでとりくんでいく時間を授業内で確保する。
- ・既習内容と結びつけて系統性を示す。

児童質問紙より

- ・予習や復習のやり方を子どもたちに指導する。